

アインシュタイン

第4号

神の与えたもうた自然そのものが、
人間の内なる快復力を励ます。W・M・ヴォーリズ

ASHRAM



住所／滋賀県近江八幡市土田町1191

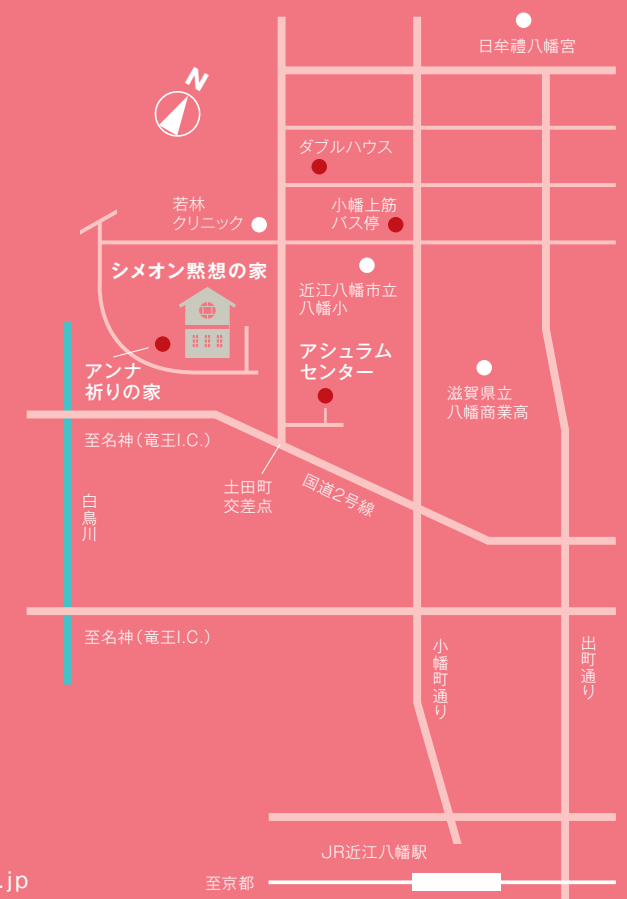
《公共交通機関をご利用の場合》

JR琵琶湖線「近江八幡駅」北口、
バスのりばより 近江鉄道バス 長命寺線 長命寺行
「小幡上筋バス停」(6区間、5分)より徒歩10分

名神高速道路「竜王I.C.」より車で20分

アシュラムセンター

〒523-0894 近江八幡市中村町567-2
TEL.0748-33-4030 FAX.0748-33-8856
メールアドレス contact@ashramcenter.jp
ホームページ <https://www.ashramcenter.jp>



ヴォーリスさんの精神を紡いで 命あるかぎり神さまとともに

2024年7月26日

お父さまは、
ヴォーリスさんのもと、
近江兄弟社で働いていた。

榎本牧師 先生、今日はお忙しい中、
そして本当に暑い中押しかけてまいり
まして、よろしくお願ひいたします。先
生の長い人生を、しかもお父さまの時
代からのことがありますから、まさに
生き証人というか、お話ししていただ
けたいと思います。

辻先生 こちらこそ、よろしくお願ひ
します。父はね、野洲郡の、今で言う
野洲市ですね、吉川というところ。だ
からヴォーリス先生がガララヤ丸で琵琶
湖を。船が着くと「寄つといで」って
う声に父なんかは懂れて走っていった
人間なんでしょうね。そして28歳くら
いになった時に、この近江サナトリウ
ム（現ヴォーリス記念病院）にお世話
になった。そこからスタートしてます。
それで結婚に至ったのは、母がこの病
院にね、桐原の小学校の教師をしてた

んですけど、肋膜炎になって、それでこ
こに入院して。その時にこの病院の
調理さんのお世話で結婚したんです。

榎本牧師 ここに盛大な結婚式の写
真が。ヴォーリスさんがオルガンを弾
いてらっしゃる。

辻先生 それ珍しいですよ。それが
ね、面白いんですよ。ヴォーリス先生は
駄洒落が好きじゃないですか、ご存
じ？それでね、うちの母の結婚式は昭
和3年3月30日の午後3時だったんで
す。何でも物は十分でいいんだけど、十
分では足りないでしょうと。三四が十二
分やと。ヴォーリス先生の新婚のお
家、池田町のあそこで披露宴をやった
んです。

お母さまと満喜子さん。
ヴォーリス夫妻が名付け親。

辻先生 母は滋賀師範を出てまして、
満喜子先生は師範学校嫌だったんで

ども、やっぱり保存しようと思つたら
相当のお金もかかるし、その活動と
かもなさらないと。

辻先生 この五葉館の前でワーク
シヨップしたり、チャペルを使って音楽
会したりとか、イベントをかなり入れ
ましたね。その度に献金してもらって。
寄付をしていたために「ツツカーハ
ウス便り」を発行したり、クラウドフ
ァーディングを立ち上げたり、コツコツと
やりました。幸い建築士もいい人がメ
ンバーの中におられました。

榎本牧師 このツツカーハウスは、公
にも広がった形で保存していくとい
うのが、兄弟社内部だけの話ではなくて。

辻先生 そうそう。株式（株式会社近
江兄弟社）やら近江オドエアーサービ
スとか財団（公益財団法人近江兄弟
社）も一緒になって協力をしていただ
くようになったし、今は役員の中にもメ
ンバーにも入って下さっているの、あ
りがたいことです。



この文章は対談の一部を書き出したものです。
対談の動画を「ちいろばチャンネル」(YouTube)でご覧いただけます。



ヴォーリス学園ハイド記念館 館長
ヴォーリス遺産を守る市民の会 理事長
辻 友子

アシュラムセンター
主幹牧師
榎本 恵

対 談

でおやつを食べたりしてるし、鼻垂れて
るし、こらあかんというので、満喜子さ
んが始められたのが託児所のようなプ
レイグラウンドだったんです。

満喜子さんとの再会。
近江兄弟社中学校・高等学校の
教師に。

榎本牧師 確か先生のお名前も。
（ヴォーリス夫妻が名付け親）

す。でもお互いに議論ができる相手やっ
たみたいですね。だから満喜子先生は
母を慕ってくださって、久子さん久子
さんって言ってね、よくお互いに相談し
合ってたよ。結婚してからは、近江
兄弟社の社員の妻ですから、もう仕事
はしない。だけど満喜子先生の教育
のお手伝いはしてたんです。

辻先生 そうなんです。今私もハイド
記念館の館長をさせていただいてます
けれども、あそこは1931年（昭和
6年）にハイドさんからの多額の寄付
をいただいて建ったわけです。そこで池
田町からお移りになった。今は一柳記
念館（ヴォーリス記念館）と申してい
ます。本当は清友園幼稚園で働く先生
方の寮だった。でも寮としては使わな
いで、すぐにヴォーリス先生の終の棲
家になったんです。ヴォーリス先生が
結婚されたのが1919年。このツツ
カーハウスが建った次の年です。192
0年からプレイグラウンドが始まった
んですよ。ヴォーリス先生、当時は東
奔西走、建築なんかのお仕事で忙しかっ
たんでしょね。ですから新婚の奥様、
満喜子さんは寂しかったというのであ
り、ご近所のお子さん見てたら、軒先

辻先生 忘れもしません1967年7
月9日です。夕方から豪雨ですよ。そ
して雷。そんな中で中学・高校の校舎
が焼けたんです。私の隣の家のおばち
やんが、友ちゃん裏の学校が火事や
で。」って大声で叫ばれたので、すぐに
我が家の6階に上がっていったら、なん
と学園の校舎が真っ赤に燃えて火の海
になってるではないですか、私は、乳
飲み子を母に預けて、すっ飛んで学園
へ走って行ったら、満喜子先生がぼー
と立ちすくみ校舎が焼けているのを見
ておられました。お互いに抱き合っ
て「おばちゃんしっかりして！」って言っ
て、再会したんです。その後、新任の英
語の先生が、生徒にいじめられたとか
で、一学期だけで学校を辞められたの
です。そこで私が浮上していくわけで
すよ。満喜子先生が杖ついて私の家に
来られて、「友ちゃん、ちよっと助けて
くれない。」とおっしゃったんです。私は

ツツカーハウスの
保存活動を始める。

※ツツカーハウスの紹介は8ページをご覧ください。

辻先生 あれは2004年くらいです
ね。私たちは何にも知らなかったんで
す。病院はどんな話が進んでました。
ここを壊してホスピスという、設計も決
まっています。けれども理事会に申し出
ましてね。そんなことから始まりまし
た。2012年くらいに正式にNPO
法人を立ち上げて本格的な活動になっ
たのです。そしてホスピス棟はツツカー
ハウスの前に建てるということになり、
そこからの保存活動で約20年かかりま
した。

榎本牧師 新聞記事にも出てますけ

写真で見る

黙	シ
想	メ
の	オ
家	ン

静かな光の中で祈り、待ち望むリトリート

自然と溶け合い、宇宙の創造主の心を受け入れる



かつて二人の親子が踏みしめた階段。
今では無数の人々が踏みしめる。



年に一度のこの時。シャッターチャンスは逃さない。



裏から覗くシメオン。また違った姿が。



窓の先には
色とりどりの景色が広がる。



ここにもベツレヘムの星が。
景色の移ろいを見届けながら。



一番人気のお部屋。
大きな窓がお出迎え。





今あるは

「今あるは神の恵み」。そんな言葉を杖にして、ある一日をただやり過ごしたのではなく、終わりのない海のように続いていく日々を生きた先人たちの信仰を思う。生というものがもたらすあらゆる歓喜と辛苦を、しかしその一言でもって最終的には受け止め、大海に浮かぶ浮標のように心に抱いていた人びとを。どうしてかれらのことが忘れられるだろうか。

そのかれらはヨルダン川の向こうへと渡っていった。久しく、今ここに残されたわたしたちもまた、それぞれの根ざした場において、「今あるは」という問いに日々応えようとしている。今あるは、なんなのか。それは恵みであるのか、呪いであるのか。結局のところわたしたちは、現在進行形のおびただしい死のすぐ隣に生きているわけで、そこにおいては「今あるは」という問いに対し、何か普遍的で、安易な答えは見出しえない。「神の恵み」という言葉の穏やかさの表層にとどまり、そこで悦に浸ることはできないのだ。

いくさが終わり、ガマから這い出てきたある沖縄の人は、そこに累々とした遺体の山を目撃し、神も仏もないと確信したという。一方、黒人の作家のボールドウィン氏は、ハーレムの教会に集う黒人のキリスト者について、「主の善性に対する明白かつ具体的で継続的な絶望の深みにあって、それでもなお神を弁護するかのような人びと」と書いている。わたしたちのイエス・キリストもまた、あの十字架の上において、なぜわたしを見捨てたのかと神を問いただし、同時にその神を弁護している。

「今あるは」という問いに、ひとつの答えはない。わたしたちと先人たちがつながる回路は、かれらの答えを繰り返すことではなく、かれらと同じ態度を持ってその問いに答えていくことから生まれるのだろう。そしてもしわたしたちもまた「今あるは神の恵み」という言葉に招き入れられ、その一言を杖として立ていくのならば、わたしたちはこの沈黙の多き神をそれでも徹底的に、弁護するものでありたいと思う。



榎本 空(えのもと そら)

1988年、滋賀県生まれ。沖縄県伊江島で育つ。同志社大学神学部修士課程修了。台湾・長栄大学留学中、C・S・ソーンに師事。米・ユニオン神学校S.T.M修了。現在、ノースカロライナ大学チャペルヒル校人類学専攻博士課程に在籍し、伊江島の土地闘争とその記憶について研究している。著書に『それで君の声はどこにあるんだ?』(岩波書店)が、翻訳書にジェイムズ・H・コーン『誰にも言わないと言ったけれどー黒人神学と私』(新教出版社)、[第十回日本翻訳大賞受賞作]サイディヤ・ハートマン『母を失うこと大西洋奴隷航路をたどる旅』(晶文社)がある。雑誌『世界』(岩波書店)などでも執筆中。

今あるは神の恵

榎本 保郎

今や、恵みの時、今こそ、救いの日。

「コリント人への第二の手紙6章2節」



ツッカーハウス

敷地内にあるツッカーハウス、礼拝堂、五葉館の3施設が見学できる。

見学は予約のみ（12月～2月は冬期休館）

●木曜・金曜・土曜の午前10時/午後13時半

●電話予約／TEL.0748-32-2456（電話受付平日10時～16時）

※近江八幡ボランティアガイド協会の有志によるガイド付き

自然の恵みと建物そのものが 心と身体を癒す

緩やかな坂道に立つツッカーハウスは一日中太陽の光を浴びて、建物そのものが自然の力で日光消毒され、患者にとっても周りの自然環境が治療の手助けとなるような空間として設計されている。命に対するヴォーリスの温かな思いや考え方が反映しており、建築自体が心と身体を癒す薬の役目を果たして来たのであろう。

不治の病であった結核のサナトリウムとしての役割を果たした後は、病院の管理棟として使用され、老朽化が進んでいた。建物の保存再生に向け、認定NPO法人「ヴォーリス遺産を守る市民の会」が立ち上がり、所有者である近江兄弟社と協力して2012年から10年に渡り改修保存工事が進められた。理事長の辻友子さんはヴォーリス夫妻が友子さんの名付け親というほど幼少の頃からヴォーリス夫妻と親しく「ヴォーリスさんが繋いだご縁を大切に守っていきたい」と話してくださった。

改修工事に当たり、ワークショップが開かれ、瓦屋根は一枚一枚市民の手で洗い再利用できるものは利用したという。修復のためのイベント開催やクラウドファンディングなど多くの支援のもと2023年5月ツッカーハウスは再生、復活した。



ツッカーハウス ヴォーリス記念病院旧本館

《ヴォーリス建築・国登録有形文化財》

アシラムセンターと
ゆかりのある場所を紹介していきます。

たびんちゅ牧師、東へ西へ

Vol.4

八

幡山の斜面沿いに並ぶヴォーリス記念病院の療養施設群。ツッカーハウスはヴォーリスが結核療養所として設計し1918年（大正17年）開院。同じ敷地内には結核患者の病棟「五葉館」（1918年建築）とヴォーリス記念病院チャペル（1937年建築）がある。「五葉館」の各個室は3カ所から太陽の光が差し込み、風が通り抜けるような間取り。隔離されていても隣室の気配が感じられる優しさ溢れた療養施設。礼拝堂は病客と職員が礼拝を捧げるために献堂された。

世界で結核が大流行した1918（大正7）年、ヴォーリスは「多くの命を救いたい」と考え、民間の結核療養所を計画。ヴォーリスの湖国伝道の活動やそのガイジョンを聞き、その熱い思いに賛同して米国の支援者である、メアリー・ツッカーが多額の善意を寄せて事業は実現した。療養所の名称は彼女にちなんで「ツッカーハウス」と名付けられた。

● 修道場・ユース・リトリートアシュラム

今年も一泊二日から五泊六日のアシュラムを開催し、様々な世代、国籍の方々が参加されました。リトリートアシュラムでは、アーティストの横山大輔・和子ご夫妻が参加され賛美のご奉仕をいただきました。



● 日本基督教団甲西伝道所の礼拝

アシュラムセンターと深い繋がりのある故後宮俊夫牧師が始められた甲西伝道所の礼拝が行われました。大勢の方が来られ、秋の紅葉を楽しみながら礼拝を守りました。



● コンサート

クワイヤーチャイムとカルテットのコンサートが催されました。クワイヤーチャイムは、近所の有志が集って毎月アシュラムセンターで練習をしています。クリスマスには様々な場所での演奏会で活躍しています。



● ヴォーリス建築見学会

今年も多くの方々にご見学いただき、喜んでいただけたこと感謝いたします。2024年10月から『まいまい京都』主催の見学ツアーに当館も参画することとなりました。ツッカーハウス（ヴォーリス記念病院旧本館）と併せどうぞご覧ください。



● 終末医療グリーフケア

『ゆうがや会』主催の終末期医療に携わる医療従事者のためのワークショップが持たれました。講師として、がん患者とその家族を支援している認定NPO法人『マギーズ東京』の秋山正子師と共にアシュラムセンターの榎本恵主幹牧師が参加し、グリーフケアの観点からワークショップを行いました。当館は、研修会などの会場としてもお使いいただけます。

支援のお願い

私たちは、シメオン黙想の家、アンナ祈りの家、これらを拠点として誰もが集える共同体を形成し、ヴォーリス建築の保存活用を進めていきます。そのためには、建物の維持管理、購入費の返済、また今後の活動に多くの費用を必要とします。上述の共同体構想に共鳴し、積極にご協力、ご支援、ご奉仕いただける方を会員という形で募集します。

金銭的なご支援だけでなく、建物や敷地の清掃

などのご奉仕、アシュラム集会へのご参加をいただけると幸いです。

ご協力いただいた方には、毎年本誌をお送りし、近況報告やヴォーリス建築などについてお伝えしていきます。また現在は、シメオン黙想の家はアシュラム集会等の利用に限定していますが、今後見学や宿泊を可能にしていき、ヴォーリス建築の魅力を伝えていきたいと思っています。

オンライン献金ができるようになりました。QRコードを読み取ってください。



感謝のメッセージ

ハレルヤ

「アンナとシメオン」第4号を、皆様にお届けすることができましたことを、心より感謝いたします。

今回の表紙は、桜の花とシメオン黙想の家です。創刊号は、新緑の夏の風景、第二号は、紅葉の美しいアプローチ、そして第三号は、雪の降り積もった静かな夜の庭を写したものでした。これで四つの季節、それぞれ趣ある写真が揃いました。私たちが、この旧佐藤久勝邸を受け継いで、5年目になります。1931年に完成したこの建物の93年の歴史からすれば、まだまだ駆け出しに過ぎませんが、それでも、少しは馴染んできたかもしれません。

ヴォーリスの書いた「吾家の設計」（初版1923年）の中に、こんな記述がありました。「昨日まで野原であったところに、今日はもう立派な住宅がぼんぼん出来ておる。そうしてその中に西洋館がたくさんあるという具合に、今日西洋館が非常に盛んになったので、それについて黙っておることがちょっとできない。（中略）生活を楽にするためにわざわざ造った西洋館が、かえって生活の邪魔をするようなものになって、そのために、またこれに対する反動が起こりはせんかと思ひます」。今から100年前に書かれたヴォーリスの懸念は、果たして杞憂として終わっているのかどうか。今多くの方々がヴォーリス建築を見学したいと来られる中、私たちは、もう一度このヴォーリスの言葉に聞いていく必要があるのかもしれない。

さて先日、関西学院大学ヴォーリス研究センター客員教授の山形政昭先生が、「近江八幡市内にあるヴォーリス建築並びに近代建築調査」のために、我が家へもお越しくださいました。近江八幡市と関西

学院とが協力し、市内に残るヴォーリス建築を調査し、一冊の出版物として、まとめるということです。この町は、500年前の安土桃山時代に遡る歴史的な場所ですが、その中に、突如として現れたのが、このヴォーリスの洋風建築でした。山形先生によると今も、40ヶ所ほどの建物が残っているそうです。そのうちの一つが私たちの「シメオン黙想の家（旧佐藤久勝邸）」です。市内から少し離れた田園風景の中に建てられた、この建物も、今では、周りをたくさんの住宅に囲まれるように立っています。古い日本家屋が、あっという間に壊され、これまたあっという間に新築の建物に変わっていく。そんな激しい変化とは対照的に、「シメオン黙想の家（旧佐藤久勝邸）」は変わらずそこにあるのです。確かに時代は変わり、世は移りました。けれどもそれは、決して生活の邪魔にはなっていないと思うのです。いや、それどころか、この建物の端々に、まさに生活を楽しみ、信仰を涵養する要素が詰まっていると自負するものです。

「さらに霊的方面に至っては、なお深い大きな関係があつて、今の精神修養のことばかりでなく、心理学上から考えて、吾々と住宅とは、切っても切れない微妙な霊的關係があります」（ヴォーリス著「吾家の設計」より）ヴォーリスは、また建物の大切さは、住みやすさという機能的な面だけではなく霊的存在でもあるともいうのです。どうか、この建物が、生活の豊かさと、霊的深まりを感じる場所となりますように。多くの方々が、この「シメオン黙想の家」に来られ、ヴォーリスが、そして佐藤久勝が願った、この「理想的な住まいの設計思想」を感じ取られることができますように。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本 恵